報告第１２号

山陽小野田市子ども読書活動推進計画検討委員会の結果について

標記の会議を開催したので、別紙のとおり報告します。

令和７年１１月２０日提出

山陽小野田市子ども読書活動推進計画検討委員会
委員長　村　中　李　衣

■会議録

会　議	山陽小野田市子ども読書活動推進計画検討委員会
開催日時	令和７年１０月２８日(火)　１４時から１５時まで
開催場所	山陽小野田市立中央図書館２階　第１会議室
出席者	山陽小野田市子ども読書活動推進計画検討委員会委員６名 村中李衣委員、　田村恵美子委員、　小野雅弘委員、　楝久光江委員、 福重和代委員、　植田眞理子委員 事務局６名 長友教育長、　山本社会教育課長 山本図書館長、　増冨中央副館長、　銭谷厚狭副館長、　三隅主任
欠席者	山陽小野田市子ども読書活動推進計画検討委員会委員３名 吹上静恵委員、　加藤善成委員、　金田和博委員
配付資料	次第等
担当課	教育委員会　社会教育課　中央・厚狭図書館
会議内容及び結果	１．開会 ２．教育長あいさつ ３．委員、事務局職員自己紹介 ４．委員長・副委員長の選出 委員長：村中委員　副委員長：吹上委員 ５．議題（委員長が議事進行） （１）第四次計画の取組み状況と成果について 事務局が資料に沿って説明。以下、各委員からの主な意見。 委員：図書館から幼稚園・保育園への団体貸出について、図書館に希望を伝えるとそれに見合った本を選書してもらえる。面白い仕掛けのある本や珍しい本に触れることができ、子どもたちも新たな発見があり喜んでいる。また、幼稚園・保育園の予算では厳しい部分を補ってもらえ助かっている。 事務局：図書館で作成したブックリストには団体貸出できる本を掲載しているので、活用してほしい。今後も多くの幼稚園・保育園に利用いただきたい。 委員：電子書籍の貸出数が令和５年度より急に伸びているのはなぜか。 事務局：市内の小・中学生全員に、電子図書館のＩＤパスワードを配布したためだと思われる。学校司書と協力して児童・生徒に使用方法や検索方法を教えた結果、増加につながったと考えている。また、電子書籍の貸出数のうち、小・中学生の割合が約８割と高いのは、学校で行われる朝の読書活動で読まれていることも一因と考える。

	委員：県内の他の図書館でも、電子書籍の普及については同様の傾向があるのか。 事務局：県内の図書館において、小・中学生全員に対して電子図書館のＩＤパスワードを配布している図書館は少ない。 委員：県内他市においても、電子図書館について児童・生徒の全員登録をされている図書館は、電子書籍の利用が飛躍的に伸びている。 委員：電子図書館利用の増加に伴い来館者が減っているわけではないのは、図書館が切れ目ないサービスを提供しているためだと思う。マタニティ・ブックスタート事業等、何年も継続している重みがある。 事務局：電子書籍の利用が伸びているが、紙の本と比較すると電子書籍の貸出しは0.8%となっている。 委員：学校司書が大変優秀で感心している。ディスプレイを工夫されたり、子どもたちが本を借りる意欲がでるような取組をたくさんされたりしている。それに協力できるようボランティアグループもスキルアップしていきたい。 委員：司書の質的確保は大変重要だと思う。 委員：学校司書については現在２校兼任だが、専任だと尚良いと思う。 委員：本市では兼任ではあるが全ての小学校に学校司書が配属されている。中学校は小学校と同一校区の学校司書が兼務しており、子どもたちが同じ司書と長期に渡り親しむことができるというメリットもある。 委員：保育士を対象とする研修や情報交換会等は、保育士の業務量が大変多く、忙しいため参加することが難しい。土曜日に開催する等、何か参加できる案はないだろうか。 事務局：図書館の職員が保育園に出かけていき、研修等を行ってはどうか。また、県として研修を行っていく必要もあるのではないか。 委員：県では土曜日に何か所か分散して開催したこともあるが、あまり出席がなかった。保育士はとにかく実務が忙しく、時間が確保できないようだ。 （２）その他 令和９年度は第五次計画策定の年であることを説明。 ６．閉会